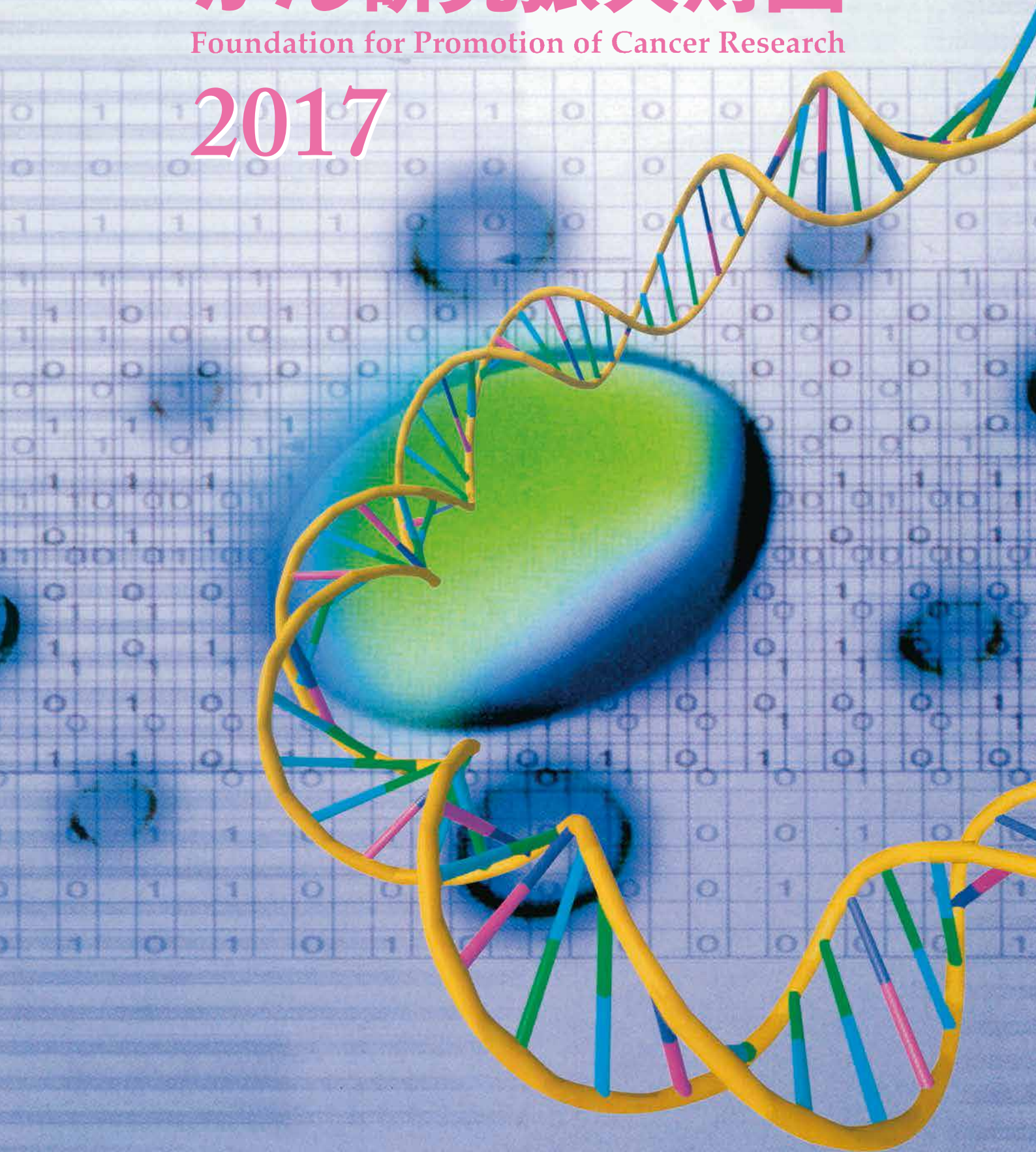


公益財団法人

# がん研究振興財団

Foundation for Promotion of Cancer Research

2017



# 公益財団法人がん研究振興財団の概要

## 沿革

- 昭和40年12月 「がん研究振興会」として発足
- 昭和43年 9 月 厚生省より「財団法人がん研究振興会」として認可
- 昭和59年 3 月 寄付行為改正により「財団法人がん研究振興財団」に名称変更
- 平成24年 4 月 内閣総理大臣より「公益財団法人がん研究振興財団」として認可  
(公益認定)

## 設立の経緯

遡ること約半世紀前の「がん」の状況は、社会においても家庭においてもかけがえのない立場にある年齢層の人達の健康にとって最大の脅威となっており、医学の進歩をもってしてもなお、未知の分野を多く残していました。

国のがん対策は、昭和37年我が国初のがん専門病院として国立がんセンターが開設され、専門的な研究、診断、治療が行われました。

当財団の設立に当っては、「がん」について医学的にも未知の分野が広く、研究すべきことが山積した状況の中で、官民一体となり、国費のほか一般の方々からの浄財を以てがんの治療、予防技術の開発事業を行うため、昭和40年12月「がん研究振興会」として発足し、その後昭和43年9月、初代会長に経済団体連合会会長であった石坂泰三氏、副会長に富士銀行頭取の岩佐凱實氏、理事長に八幡製鉄副社長藤井丙午氏、常務理事に経済団体連合会専務理事花村八郎氏による経済界を挙げての組織体制により厚生省から財団法人として認可設立されました。

昭和59年度からは、国による「対がん10か年戦略」に伴う事業を実施するため、昭和59年3月、名称を「財団法人がん研究振興財団」と改め、推進事業を30年に亘り実施して参りました。

また、平成24年4月に内閣総理大臣から全事業を公益事業とする認定を受けております。

## 事業内容

- (1) がん研究に関する研究の助成
- (2) がん研究に関する国際協力及び国際交流
- (3) がん研究に関する若手研究者の育成
- (4) がん研究に関する国民への情報発信
- (5) がん研究に関する国内外諸団体との連携及び協力
- (6) その他本財団の目的を達成するために必要な事業

## 役員・評議員・顧問名簿

平成28年7月1日～

会 長 荒蒔康一郎（キリンホールディングス株式会社 元会長）  
理 事 長 堀田 知光（公益財団法人がん研究振興財団 理事長）  
  
理 事 上田 龍三（愛知医科大学医学部 教授）  
垣添 忠生（公益財団法人日本対がん協会 会長）  
関谷 剛男（公益財団法人佐々木研究所 常務理事・研究所長）  
田中 利彦（田中綜合法律事務所 代表弁護士）  
山口 俊晴（公益財団法人がん研究会 有明病院 病院長）  
監 事 亀口 政史（亀口公認会計士事務所 所長）

評 議 員 石田 昌宏（参議院議員）  
澁谷 正史（上武大学 学長）  
菅野 純夫（東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授）  
田島 和雄（三重大学大学院医学系研究科 客員教授）  
中釜 齊（国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長）  
野田 哲生（公益財団法人がん研究会 代表理事・常務理事 研究所長）  
宮園 浩平（東京大学大学院医学系研究科 教授）  
村上 善則（東京大学医科学研究所 所長 教授）

顧 問 大竹 美喜（アフラック創業者 公益財団法人がん研究振興財団 前会長）  
高山 昭三（公益財団法人高松宮妃癌研究基金 理事長）

# 2016年度事業実績

## 1 研究助成事業

### ① がん研究助成

第49回がん研究助成審議会の審査を経て、次のとおり研究助成金を贈呈。

第49回がん研究助成金  
一般課題 A (100万円) 10名 一般課題 B (50万円) 10名 特定課題 (200万円) 3名

### ② 指定研究助成

特別寄付金に伴う研究助成金として贈呈。

「超音波ガイド下経気管支針生検における新型細径針の有用性に関するランダム化比較試験」  
1件 90万円 1名

### ③ 海外派遣研究助成

がんに関する国際会議、国際学会へ出席する研究者・医師27名に対し、海外旅費等の助成金を贈呈。

### ④ 技術者研修助成

看護師、薬剤師、放射線技師等のコ・メディカルスタッフ9名に対し、海外旅費等の助成金を贈呈。

## 2 がんになっても生きる希望を持てる事業(HOPE事業)

### ① 研究助成(個別研究課題)

がんに関する研究に従事する日本人研究者で、がん研究の推進・発展に貢献する研究課題に対し、研究助成金を贈呈。  
(5名)

研究課題名	
1	新規 HSF1 活性化因子 IER5 を介した、がん細胞のストレス抵抗性獲得・がん悪性化機構の解明
2	EGFR 変異を伴う肺腺がんリスクに対する HLA-DPB1 アレルの違いとその機能的意義の解明
3	がん医科歯科連携推進のための支援ツールの開発と普及に関する研究
4	味覚・食感を損なわず口内炎の痛みのみを取る Compound X の Phase I (First in human) 試験～口内炎に苦しむがん患者を対象とした Phase II 試験へつなぐ研究～
5	がん細胞の DNA 複製ストレスレベルによる DNA 損傷性抗がん剤の奏功性予測

## ② 若手、女性研究者の戦略的育成(シニア・リサーチフェロー制度)

第一線で活躍する研究者の指導を受け、がん研究の中核となる若手研究者を育成するための助成金を贈呈。(6名)

	医学	歯学	理学	薬学	農学	保健学	計
2016	4		1			1	6

## ③ 海外派遣支援(留学)

がん研究の進歩・発展に貢献することが期待される研究者を外国の研究機関及び大学等に派遣するための助成金を贈呈。(2名)

派遣先研究機関	
1	New York University Langone Medical Center Laura and Isaac Perlmutter Cancer Center
2	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center

# ③ がんサバイバーシップ研究支援事業

## ① 研究助成(一般研究課題)

がんサバイバーシップに関する研究の進歩・発展に貢献する研究課題に対し、研究助成金を贈呈。(8名)

研究課題名	
1	乳がんサバイバーの経験する再発不安・恐怖の緩和に資する新たな心理的介入法の開発
2	がん患者の栄養・食事環境の整備に関する研究
3	小児がん克服者の男性不妊治療を支援する画像診断法の開発
4	がん患者が均質で高い質の口腔支持療法を受けることが可能になる均てん化支援ツールの開発
5	AYA世代のがんが恋愛や結婚に及ぼす影響
6	手術を受けた食道がんサバイバーが「自分に合ったよりよい退院後の生活をする」ための支援プログラムの開発と普及ー高齢がんサバイバーを対象としたケアに重点をおいたケアの展開ー
7	がん治療後に子どもを持つ可能性を残すー思春期・若年成人がん患者に対するがん・生殖医療に要する時間および経済的負担に関する実態調査
8	がんの在宅医療と療養介護に関する患者・家族・支援者向け情報提供手法の開発に関する研究

## ② 研究助成(特別研究課題)

患者本人や家族、医療者が精神面に受ける影響、または、心理的・社会的因子ががんの発症や罹患後に与える影響を解明するための研究(サイコオンコロジー研究)に対する研究助成金を贈呈。(1名)

研究課題名	
1	認知症を合併したがん治療における意思決定を支援するプログラムの開発

## 4 研究成果等普及啓発事業

がんサバイバーシップ研究成果発表会・がんサバイバーシップセミナー、国際がん研究シンポジウムを開催。また、研究の成果を国民にフィードバックするため、各種情報媒体を活用し、がん教育の普及啓発を推進。

### がんサバイバーシップ研究成果発表会・セミナー

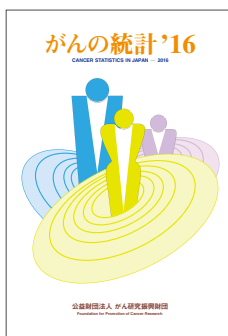
開催日 平成 29 年 1 月 27 日 (金)  
会 場 国際研究交流会館

### 国際がん研究シンポジウム

テーマ 難治がん克服に向けた最新の治療戦略  
開催日 平成 29 年 2 月 17 日 (金) ~ 18 日 (土)  
会 場 国際研究交流会館

## 5 広報活動事業

### ① 全国のがん診療連携拠点病院等へ配布。



がんの専門家のみならず一般の方にもわかりやすいがんの統計本として年1回発行。

#### 【要旨】

- ・がん罹患率、死亡率年次推移
- ・部位別、年齢階級別5年・10年生存率 etc  
(印刷部数 4,000 部)



#### 【要旨】

新 12 か条の提案と各条の説明  
(印刷部数 10,000 部)

### ② 主に全国の公立中学校2年生に向けて配布。その他保健所・市区町村・がん診療連携拠点病院等。 (印刷部数 各 1,370,000 部)



#### 【要旨】

- ・どんな病気?
- ・検診方法
- ・治療法の紹介 etc

※財団ホームページにて閲覧可能。

# 事業実績

1984～

# 1 若手研究者の育成事業

## ■ リサーチ・レジデント制度

将来のがん研究の中核となる人材を育成。

年 度	医学	歯学	理学	薬学	農学	その他	
1984～1993	345	9	36	44	19	-	
1994～2003	586	23	25	49	19	51	
2004～2013	395	19	49	64	50	130	総計のべ
2014	34	2	6	1	1	5	1,943

## ■ シニア・リサーチフェロー制度 (HOPE 事業)

将来のがん研究の中核となる若手の上級研究者を育成。

年 度	医学	歯学	理学	薬学	農学	その他	計
2015	3		1			1	5

# 2 研究助成事業

## ■ がん研究助成

がん治療の新分野開拓のための優秀な研究に対して、研究助成金を贈呈。  
(過去10年の実績)

年 度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
一 般	24	24	24	37	36	20	24	20	21	20
特定等	4	4	4	12	11	11	4	4	3	3
計	28	28	28	49	47	31	28	24	24	23

## ■ HOPE 研究助成

HOPE 事業に関わる研究助成金を贈呈。

年 度	医学	歯学	生命科学	保健学	計
2015	1	1	2	1	5

## ■ がんサバイバーシップ研究助成

がんサバイバーシップに関する研究の進歩・発展に関わる研究助成金を贈呈。

年 度	医師	看護師	その他	計
2015	2	6	8	16

## ■ 特別寄付金に伴う研究助成

寄付金規程に基づく研究助成金を贈呈。

年 度	医師	計
2015	1	1

# 3 海外派遣研究助成事業

がんに関する国際会議、国際学会へ出席する研究者・医師に対し、海外旅費等の助成金を贈呈。  
(過去10年の実績)

年 度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
派遣数	56	76	61	32	37	34	32	30	31	30



## 4 技術者研修助成事業

看護師・薬剤師・放射線技師等のコ・メディカルに対し、海外旅費等の助成金を贈呈。  
(過去10年の実績)

年 度	看護	放射線	臨床検査	薬剤	ソーシャルワーカー	理学療法士	計
2006	5	7	2	4	—	—	18
2007	5	7	—	6	1	—	19
2008	4	4	—	5	—	—	13
2009	4	6	—	5	—	—	15
2010	2	8	—	4	—	—	14
2011	3	8	—	3	—	—	14
2012	3	3	1	1	—	2	10
2013	5	3	—	1	—	1	10
2014	2	5	—	1	—	1	9
2015	4	2	1	1	—	1	9

## 5 研究成果等普及啓発事業

### 国際がん研究シンポジウムの開催

世界の著名ながん研究者を招いて日本人研究者とのシンポジウムを開催。

年 度	テーマ
1988～1993	肺がんの基礎と臨床 多重がんの基礎と臨床 膵・胆道がんの基礎と臨床 肝臓がんの基礎と臨床 尿路性器がんの基礎と臨床 食道がんの基礎と臨床
1994～2003	肺がんの基礎と臨床 脳腫瘍の基礎と臨床 胃がんの基礎と臨床 がん検診—過去・現状・未来— がん性疼痛治療、緩和医療と精神腫瘍学—現状と将来の展望— 血液腫瘍の診断と治療の最近の進歩 大腸がんの基礎と臨床 頭頸部がんの基礎と臨床 乳がんの基礎と臨床 膵臓がんの基礎と臨床—最近の進歩—
2004～2013	胃がんの基礎と臨床—最近の進歩— 感染、がんと予防 がん根治手術後の生理学的変化と QOL 最近の放射線腫瘍学：技術の進歩と臨床導入への研究 頭頸部・食道がんの基礎と臨床—最近の進歩— 科学の発展を乳癌治療へ～新たなる挑戦～ 放射線とがん 世界のがん研究は今～次期対がん戦略に向けた課題～ 前立腺がんをめぐる課題と挑戦 悪性脳腫瘍～現状と展望～
2014	希少がん：望ましい医療・研究体制を探る

### 国際がん看護セミナーの開催

がん患者とその家族を支える看護・医療の向上を図るための、国内外のがん看護関係者とのセミナー。

年 度	テーマ
2000～2003	がん看護の実践力の向上をめざして がん向き合う人を支える がん看護領域の教育と実践 がん向き合う人を支える part II
2004～2013	がん患者の自律を目指して これからのがん看護 part II 変革するがん看護 part II がん医療における外来看護に求められる役割 part II がん医療における継続したがん看護の充実 part I がん医療における継続したがん看護の充実 part II 高齢者のがん”その人らしさを支えるがん看護と研究”～アジアの国々から～ これからのがん看護 変革するがん看護 がん医療における外来看護に求められる役割 part I
2014	がん医療の質向上を担うがん看護の「現在」と「発展の10年度」を問う

## ■ 市民公開講演会の開催

年 度	テーマ
2008～2013	がん撲滅を目指して がん撲滅に向けた新たな挑戦ーこれからのがん研究の若き担い手へのメッセージー がん撲滅に向けた新たな挑戦ーがん研究の明日を担う方々へー がん克服に向けた新たな挑戦ーがん研究の明日を担う方々へー がん克服に向けた新たな挑戦ーがん研究はがん医療の未来へ繋ぐー 発がん機序からがん予防までー研究成果と課題ー
2014	がん研究と市民社会 ～高齢者がんとサバイバーシップ～

## ■ がん患者学会の開催

年 度	
2015	(一社) 全国がん患者団体連合会と共催

## ■ 公開セミナーの開催

年 度	テーマ
2015	「高齢者のがん」本当に今の治療で良いのか

# 6 広報活動事業

一般の人々にも理解できるがん研究に関する最新情報、日常生活の中で実行できるがん予防法の知識などについて、パンフレット、カレンダーなどにして配布し、正しいがん知識の普及とがん研究者等への資料提供。(日本宝くじ協会助成事業 他)

年 度	事業内容
1985～1993	がんを防ぐための12か条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 対がん戦略PRポスター、カレンダー がんの統計 16ミリ映画「がんに挑む」「がんから身を守るポイント」の作成 他
1994～2003	がんを防ぐための12か条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 がんどう付き合うか(総論・肺がん・胃がん) がん克服戦略PRポスター、禁煙指導用ポスター がんの統計 他
2004～2013	がんを防ぐための12か条 やさしいがんの知識 君たちとタバコと肺がんの話 がんどう付き合うか(乳がん・肝がん・大腸がん・外来抗がん剤治療・子宮がん・前立腺がん・放射線治療・がんと食事・卵巣がん・食道がん・膵臓がん・緩和ケア・がんのおはなし・がんと暮らし・口腔がん・子どものがん) がんを防ぐための新12か条 がんの統計 予防できる「子宮頸がん」「大腸がん」 早期発見で治そう「乳がん」 「たばこ」がいらない、これだけの理由。 他
2014	予防できる「子宮頸がん」「大腸がん」「肺がん」 みんなで考えよう「乳がん」 やさしいがんの知識「胃がん」 がんを防ぐための新12か条シリーズ①喫煙とがん ②飲酒とがん ③食事とがん がん治療前の食事のヒント改訂版 食事に困った時のヒント最新版 がんの統計
2015	がんを防ぐための新12か条 やさしいがんの知識「乳がん」「子宮頸がん」「大腸がん」「肺がん」 がんの統計

# 国による対がん戦略 1984年～

1984年～1993年

## 対がん10か年総合戦略 (厚生省、文部省、科学技術庁)

### 戦略目標「がんの本態解明を図る」

- ① ヒトがん遺伝子
- ② ウイルスによるヒト発がん
- ③ 発がん促進とその抑制
- ④ 新しい早期診断技術の開発
- ⑤ 新しい理論による治療法の開発
- ⑥ 免疫の制御機能および制御物質

1994年～2003年

## がん克服新10か年戦略 (厚生省、文部省、科学技術庁)

### 「がんの本態解明から克服へ」

- ① 発がんの分子機構
- ② 転移・浸潤およびがん細胞の特性
- ③ がん体質と免疫
- ④ がん予防
- ⑤ 新しい診断技術の開発
- ⑥ 新しい治療法の開発
- ⑦ がん患者のQOL

2004年～2013年

## 第3次対がん10か年総合戦略 (厚生省、文部科学省)

### 「がんの罹患率と死亡率の激減を目指して」

- ① がんの本態解明
- ② 基礎研究の成果の予防・診断・治療への応用
- ③ 革新的ながん予防・診断・治療法の開発
- ④ がん予防の推進による生涯がん罹患率の低減
- ⑤ がん医療の均てん化

H18.8 がん対策基本法 成立  
H19.4 がん対策基本法 施行  
H19.6 がん対策推進基本計画 閣議決定

### H24.6 がん対策推進基本計画(第二期)閣議決定

2014年～2023年

## がん研究10か年戦略 (厚生労働省、文部科学省、経済産業省)

### 「根治・予防・共生～患者・社会と協働するがん研究～」

- ① がんの本態解明
- ② アンメットメディカル  
ニーズに応える新規薬剤開発
- ③ 患者に優しい新規医療技術開発
- ④ 新たな標準治療
- ⑤ ライフステージやがんの特性に着目した重点研究領域  
1. 小児がん 2. 高齢者のがん  
3. 難治性がん 4. 希少がん等
- ⑥ がんの予防法や早期発見手法
- ⑦ 充実したサバイバーシップを実現する社会の構築
- ⑧ がん対策の効果的な推進と評価

H26.3 がん研究10か年戦略  
(厚生労働大臣、文部科学大臣、経済産業大臣確認)

## がんを防ぐための **新** 12か条

あなたのライフスタイルをチェック  
そして今日からチェンジ!!

- 1 条 たばこは吸わない
- 2 条 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
- 3 条 お酒はほどほどに
- 4 条 バランスのとれた食生活を
- 5 条 塩辛い食品は控えめに
- 6 条 野菜や果物は不足にならないように
- 7 条 適度に運動
- 8 条 適切な体重維持
- 9 条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 10 条 定期的ながん検診を
- 11 条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
- 12 条 正しいがん情報でがんを知ることから

発行 公益財団法人 がん研究振興財団  
〒104-0045 東京都中央区築地5丁目1-1 国際研究交流会館内  
TEL. 03-3543-0332 ホームページ <http://www.fpcr.or.jp/>

## がんを防ぐための **新** 12か条

自分へ家族へ。  
予防は思いやり。



公益財団法人 がん研究振興財団  
Foundation for Promotion of Cancer Research



## 公益財団法人 がん研究振興財団

Foundation for Promotion of Cancer Research

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-8 新京橋ビル 5階  
TEL 03-6228-7297 FAX 03-6228-7298 E-mail [info@fpcr.or.jp](mailto:info@fpcr.or.jp)  
ホームページ <http://www.fpcr.or.jp>